

6) 久慈川の爬虫類

上流域から河口まで、環境の変化に富んだ久慈川流域から様々な爬虫類の生息が確認されている。阿武隈淡水動物研究会による1986年から2002年の調査では、5科12種が確認された。また、常陸大宮市の辰ノ口堰より下流の区域における調査では3科7種が確認された。流域の爬虫類の特徴としては、茨城県内に分布するトカゲ類やヘビ類の在来種すべてが確認されていることや、県内での確認情報の少ないタチホヘビやシロマダラの生息報告がされている地域であることなどがあげられる。しかし、主食となる小動物の減少のためか、地中のネズミ類を食べるジムグリや、カエルやオタマジヤクシなどを食べるヒバカリなどの姿をあまり見かけなくなった地域もある。また、ニホンカナヘビが普通種である反面、ニホントカゲは多くの地域で少なくなっている傾向がみられる。なお、カメ類については、国外外来種のアカミミガメの他にクサガメを確認しているが、クサガメは古い時代に西日本から移殖された国内外来種である可能性がある。

表 6-17 久慈川水系で確認された爬虫類

目名	科名	種名	備考
カメ目	ヌマガメ科	クサガメ	国内外来種
		ミシシippアカミミガメ	国外外来種
トカゲ目	トカゲ科	ニホントカゲ	
	カナヘビ科	ニホンカナヘビ	
	ナミヘビ科	タチホヘビ	
		ヒバカリ	
		シロマダラ	
		アオダイショウ	
		ジムグリ	
		シマヘビ	
		ヤマカガシ	
	クサリヘビ科	ニホンマムシ	

注：学名や和名は、爬虫両棲類学会(2002)「日本産爬虫両生類の標準和名」に従った。この目録は、1986～2002年の阿武隈淡水動物研究会の調査に基づきとりまとめた。

(稲葉修氏調査資料をもとに作成)



写真提供: 稲葉 修氏

ニホントカゲ  
(トカゲ科)

全長は20~25cmほど。日本各地に分布する。平地から丘陵地にかけて生息するが、山間の人家庭先にも姿をあらわす。初夏の頃に石の下の隙間や草地の巣穴で卵を産む。

久慈川流域では草地や人家周辺に見られるが、以前と比較すると減少している。



写真提供: 稲葉 修氏

ニホンカナヘビ  
(カナヘビ科)

全長は18~25cm。日本各地に分布している。平野部から丘陵地に多く、山間の人家庭先でも確認することができる。初夏から夏にかけてが産卵期であり、草の根元などで卵を産む。

久慈川流域では、人家周辺にて比較的普通に見られる、最も身近な爬虫類である。



タカチホヘビ  
(ナミヘビ科)

全長は最大で60cmほど。本州、四国、九州に分布する。地中性であり発見されることは少ない。現在までの発見は山間部での例が多い。本種のウロコは盛り上がり、光沢があって、光の加減によって虹色の光沢となる。

久慈川流域では、八溝山や常陸大宮市にて数匹が確認されているだけであるが、流域の山間では多くの地域に普通に生息しているものと思われる。



写真提供: 稲葉 修氏

シロマダラ  
(ナミヘビ科)

全長は最大で70cmほど。北海道から本州、四国、九州に分布するほか、伊豆大島や佐渡島、屋久島などの島々にも見られる。白と黒の模様があるヘビで、平野部から山地に至るまで生息している。

久慈川流域での確認例は少ないが、流域各地では白と黒の色彩をもつヘビの確認情報があり、本種は久慈川流域に広く分布しているものと考えられる。



写真提供: 稲葉 修氏

ジムグリ  
(ナミヘビ科)

全長100cmになる。北海道から本州、四国、九州、そして屋久島や種子島にまで分布する。主に山地に多いが、山間部では人家の庭先にも姿をあらわす。

久慈川流域では、山間部に比較的多く見ることができたが、現在では多くの場所で以前よりも確認することが少なくなっているようである。



写真提供: 稲葉 修氏

ニホンマムシ  
(クサリヘビ科)

全長60cm前後になる。北海道から本州、四国、九州、そして五島列島や屋久島などにも分布する。毒ヘビとして知られており、丘陵地から山地の湿地や水田周辺などに生息している。

久慈川流域には河口部周辺をのぞいて広く生息しており、河川沿いの河岸段丘の斜面の湧水地の周りなどにも多い。